

大学の世界展開力強化事業（平成 29 年度採択） 中間評価結果

大 学 名	近畿大学
整理番号	AR07
事 業 名	日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>コメント</p> <p>本プログラムは、理工学部を中心とする短期人材交流・交換留学・学位プログラムの3層の構成により、日本とロシアを結ぶモノづくりの中核人材や、製品開発プロジェクトを推進することのできるグローバル人材の育成を目的としている。</p> <p>学生交流については、プログラム参加学生募集枠を大幅に超える数の応募があった点や、学生向けのプログラム参加報告会において多数の出席者を得たことから始まり、学生の国際交流に対する関心を喚起する取組を進めた結果、派遣・受入ともに目標人数を大きく上回っており、評価できる。また、短期人材交流、交換留学、学位プログラムの全てにおいて企業インターンシップを積極的に実施することで、学生のキャリアパス形成に繋げている。特に、短期人材交流プログラムでは着実に実績を挙げていることから、今後は単位取得を伴う留学へと展開していくことに期待したい。さらに、環境整備の面では、ロシアに現地事務所を2箇所設置し、ロシアにある日系企業の協力を得ながら学内の国際センターを通じてリスク事案への迅速な対応が可能な体制を整えていることや、ロシア事情に精通する専門職員を雇用することで、派遣・受入学生へのサポート体制の充実を図るなど、グローバル人材の育成を強力に推し進めようとする姿勢も評価できる。</p> <p>一方で、相手大学が10校と多数であるにもかかわらず交流目標数を少数に設定していることから現状では目標を達成できているが、学生を3層から成るプログラムに継続して参加させる計画からすると、短期人材交流プログラムから交換留学プログラムに継続参加した受入数は少数に留まっていることから、増加に向けた工夫が望まれる。また、単位認定に関しては、近畿大学で取得した科目が一部の他の大学で単位認定されなかったケースがあり、学生にとっては大きな負担となる可能性が予見されることから、当該大学との間で科目内容や評価基準の事前確認を徹底するなどの改善が必要である。</p> <p>最後に、今後も補助期間終了後の安定的な財源確保に努めるとともに、学内や関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と将来の我が国の更なる発展に向け、積極的にプログラムを展開していくことを期待する。</p>	